

第 52 回 奈良県ジュニア美術展覧会概評

日本画の部

今年は、出品点数も多く、力作の揃った展示となりました。また、着想や色彩の感覚など、今の時代の若い人たちの感性を垣間見るような思いで、実に楽しく作品に接することができました。

*ジュニア県展賞

「いつまでもかわいいお姫様。」 荒木 結衣
桃色系統でまとめた色調が、見る側にスッと入り込んでくる魅力的な作品になりました。

猫の描写も的確で、画面構成や色彩の調和、さらには表現力など、まとまりのある作品となっています。

*知事賞「鯉、来い」 遠藤 桜

着想のおもしろさに、まず引き込まれます。

一見、雑然としている印象ですが、水面の表現を例に挙げても、中心部を濃く、周辺にいくほど色味をおさえて表現されるなど、実に細やかな工夫が見られます。作者の「これを描きたい」という思い入れの強く表れた良い作品となりました。

*奈良県議会議長賞「うつろう季節」 山口 風花

やわらかな淡い中間色が全体に響き渡り、思春期の揺れ動く繊細な心情まで感じ取れるような、奥行きのある質の高い作品となりました。入念に描き込まれた花や、少女の顔の印象、手の表現など、それぞれが作用し合って作品の雰囲気を高め合っているところは、すばらしいと感じました。

洋画の部

第 52 回のジュニア美術展覧会は、中学生の出品が多く、選定に苦慮しました。どの作品もさまざまなテーマで工夫され、面白く画面構成がなされ、色も独自の配色でしっかり描かれていました。全体によく出来ていましたが、審査してまず目につくのは描き込みです。しっかり描き込まれた作品はやはり見る人に感動を与えます。テーマの面白さ、画面の構成、色の工夫、それぞれ充分考え、しっかり描き込んだ作品を期待しています。

*ジュニア県展賞「ひとつの希望」 良原 成美

いくつかの物を巧みに配置し、ムーブマン（動勢）を感じる美しい構成です。色彩も、褐色のスコップを画面の主調色として統一する作者の色感は、とても素敵で魅力的です。

*知事賞「見えないもの」 山下 万結子

子供の頃に見たであろう海の生き物を、列車を用いて表現した作品ですが、深い緑の色調と、上から見おろした視点、広角的な遠近表現、それらが調和した画面に強く好感を持ちました。上手な絵ではありませんが、人の

心を惹きつける作品です。

*奈良県議会議長賞「生牡蠣」 糸数 千尋

キャンパスに「生牡蠣」を画面最大に表現したユニークな作品です。生牡蠣のぬめりと身の構造がリアルな表現で存在感にあふれています。たぐみな描写力は作者の造形性と意欲が感じられて絵画と思えない秀作となっています。

色彩の調色にも苦心の跡が感じられて観賞者に不思議な魅力となって伝わって来ます。

彫刻の部

この様な立派な会場に作品を展示できることは、出品者の皆さんにとって大変幸せだと思います。

鑑審査はすべて投票で厳正公平に行いました。前回に比べ全体的に小ぶりの作品が多く、少し残念ですが、技法・素材も色々あり楽しい内容になっています。

*ジュニア県展賞「ご神鶏」 石原 泰成

二点の作品を別々の素材で作り上げた作者の情熱が審査担当者に響きました。石膏取りも上手く出来ています。

*知事賞「日替わりランチ 本日のおすすめ」 田浦 未咲

手数のかかる石を、時間をかけ刻んでいます。ひとノミ、ひとノミの根気が丸い形にしっかりと込められた秀作です。

*奈良県議会議長賞「悠久の痕跡」 今田 温人

陶の作品です。うまく色合いの差がつけられている技法も見ごたえがあります。骨単品でなく、周りも細かく気を使い作られています。

工芸の部

本年も万葉文化館での開催となった。出品点数は昨年よりも総数で6点少なかった。作品も全体的に小型であったが、制作に取り組む真摯な姿勢が評価できる、真面目な作品が多かった。色彩や釉薬に一層丁寧な仕事を望みたい。

*ジュニア県展賞「未熟の可能性」 加藤 舞衣

甲羅の突起が特徴的なカメを形取った陶芸作品である。色彩と形について実写の能力が高く、リアルに作陶できており、工芸作品（焼き物）としての完成度が高いことが評価できる。飼っているペットを写したのかもしれないが、愛らしく、3匹は家族のようで微笑ましい。

*知事賞「始まりの輝」 本田 光一

嘴に眼球が入った猛禽のような怪物をデザインしている。翼にあたるものの先に人の手が付き、足は金色の鉤爪である。こうした形態にオリジナリティが感じられる。

また台座にも十分に配慮があり、宇宙のような色彩と銀河のような輝きもほどこされて、怪物が舞う空間表現となっている。この作品の材質は紙粘土のようであり、彫刻作品とも見えかねない。今後、「工芸」というものの意味にも配慮してほしい。

デザインの部

出品作品全般に、デザインであるか、イラストレーションであるかの境界が不明の作品が多いことが気がかりである。世に訴え求める内容を、色と形で力強く明確に表してほしいというのが願いである。

*ジュニア県展賞「Wiring Power」 門川 蒼吾

ダンボールの端材の形状と質感を生かして、何本もの電線が接続された（つまり wiring）頭部を表した。中央に置いたメカニクな顔とバックの扱い方に、知的で安定した構成力がうかがえる。その上で言えば、主題とその内容をさらに深めてほしい。

*知事賞「この惑星の往く末は？」 杉山 耀一

細い白線で惑星の軌道を描き、画面の上下に濁色系の赤と灰緑との混じり合いを施した。フォントや作画時のレイヤー（図や像の重ね）の工夫にみるべき点があり、知性も感じられる。作品には温暖化に向かう地球に対する素直な主張に感心すべきものがある。

*奈良県議会議員賞「goethite」 土田 朝陽

デザインとしてグリッド計算に注力してある点などを評価したものの、デザインというものの本質を考えると、審査員の中でも議論が多くあった。

最後になるが、雨の店先にうずくまる3匹の猫に足をとめる、ランドセルを背負った少女の姿に優しい眼差しを感じる作品も印象的であった。

書芸の部

第52回展の出品点数は昨年より15点減少したが、完成度は変わらず安定感のある作品が多かった。よく書き込んだと思える作品には、技術を越えた魅力を感じた。また、表具を自分たちの手で行うことは、学書者にとって大切な学びであるが、今後はより丁寧な技量を身につけてほしい。

*ジュニア県展賞「臨 楊峴」 古川 由奈

波磔の強調された楊峴の臨書。その魅力を十分に再現するよう、横作品に仕上げている。点画の強弱・太細をつけ、力強い作となった。

*知事賞「臨 針切」 中谷 心音

針切は、針で書かれたような細く鋭い線が特徴であり、それを良く表現された秀作。鋒先鋭く書かれ、繊細な線が魅力的であった。

写真の部

今年も多くの皆さんが、身近な風景や心に残った一瞬を写真に収め、豊かな感性を表現してくださいました。特に、自然の光を生かした作品や、友達との大切な時間を切り取った作品には、撮影者の思いがしっかりと伝わってきました。

年齢によって視点の違いが見られたのも興味深く、低学年は身近な題材をのびのびと、高学年は構図や表現の工夫が一層目立ちました。

これからは、見慣れた風景の中に新しい発見を求めたり、撮影する時間帯やアングルを変えてみたりと、さらに工夫の余地が広がっていくことでしょう。

出品して下さったすべての皆さんの挑戦に敬意を表し、次の作品に出会えることを楽しみにしています。

*ジュニア県展賞「桃源郷のアドバイザー」 岩上 海斗

二人の生徒が窓の外を見て話合っています。身をのりだして、ペンで何かを差している姿から、かなり大切なことをアドバイスしているようです。その背中としぐさから、話の中身を想像してしまいます。普通の高校生活のワンシーンですが、「今」しか撮ることができない素直な写真として魅力があります。

*知事賞「鏡にいるあなた」 中川 蓮桜

写真で大切な、感受性・オリジナリティ溢れる、学び舎をベースにした虚実をメッセージにした作品だと感じました。鏡をトリックに仕立てたテクニカルがポイントになり、センシビリティの高い秀作となりました。

第52回奈良県ジュニア美術展覧会審査員				
日本画	多留 裕二	増田 貴司	吉田 みゆき	
洋画	今中 和義	岡崎 浩	岡田 俊一	
彫刻	石増 敏枝	杉村 仁	鈴木 正三	
工芸、デザイン	大塩 正	北山 あけみ	嶋 高宏	嶋田 宏司
書芸	井上 雅章	栢木 ふみ	河合 保秀	
	喜多 芳邑	武村 榮子	山本 肇一	
写真	澤 戡三	三岡 弘明	吉川 直哉	

敬称略・五十音順